

第8回 野田市生物多様性のだ戦略市民会議

日時 令和4年10月24日（月）
午後3時30分から午後5時
場所 野田市役所 低層棟4階
委員会室及びリモート参加

会 議 次 第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議題

議案第1号 第7回市民会議（書面開催）での主な意見について【資料1】

議案第2号 第2期戦略（素案）について 【資料2】

- 4 その他（今後のスケジュールについて） 【資料3】

- 5 閉会

※ 資料2「第2期戦略（素案）について」は、当日配布します。

議案第 1 号 第 7 回市民会議（書面開催）での主な意見について

新型コロナウイルス感染症対策として、第 7 回市民会議が書面でご意見をいただきました。いただいた意見は、次の通りです。

議事 1（資料 1）：これまでの市民会議の検討経緯と第 2 期戦略の方向性

これまでの市民会議でいただいた意見を踏まえ、第 2 期戦略の方向性を次のとおりとすることを説明。

- ・ 分かりやすく伝えること。
- ・ 市・市民を主とした目線であること。
- ・ 地域づくりに向けたものにする。
- ・ SDGs に合致したものであること。

⇒方向性について了承（15 名）※ただし意見あり

主なご意見	今後の対応等
・ 「SDGs に合致した生物多様性の主流化」の意味が不明確なので分かりやすい言葉で加筆した方がよい。 ・ 戦略、方向性は必要な事だが、策定までに多くの時間が割かれているので、あくまでも実行することを目的として考えてほしい。	・ 素案第 1 章では、SDGs と生物多様性のつながりについて記載しているので、確認いただき、改めてご意見を願いたい。 ・ 第 2 期戦略は今年度中の策定を予定している。令和 5 年度から実行できるように進めたい。

議事 2（資料 2）：第 2 期戦略における構成イメージ（案）について

議事（1）で記載した第 2 期戦略の方向性に基づいた戦略の構成イメージ（将来像や目標、方針等）について説明。

⇒構成イメージ（案）について了承（15 名）※ただし意見あり

第 1 章 第 2 期戦略の基本的な考え方

- （1）「生物多様性」とは
- （2）生物多様性の背景
- （3）生物多様性の戦略の位置づけ

主なご意見	今後の対応等
・ 「第 1 章（1）生物多様性とは」の生物多様性の説明が足りない。生物多様性がなぜ必	・ 素案では、生物多様性が人々の生活を支えていること、3 つのレベルの多様

主なご意見	今後の対応等
要なのか。自然の仕組みや生態系サービスを分かりやすい言葉で説明することも必要。 ・「(2) 生物多様性の背景」：SDGs は、項目だけでも枠外に書き出した方が良くはないか。	性や生態系サービスについて記載しているので、確認いただき、改めてご意見をお願いしたい。 ・素案では、SDGs のどの項目が関わっているかについて記載しているので、確認いただき、改めてご意見をお願いしたい。
第2章 野田市の生物多様性の現状 (1) コウノトリをシンボルとした生物多様性の取組 (2) 自然環境調査（歴史調査を含む）から見える現状 (3) 社会環境調査（アンケート調査）から見える現状	
主なご意見	今後の対応等
・現状の表現内容は全体としては良いと思いますが、コウノトリの表現をもう少し工夫してほしい。コウノトリの保全のみに焦点がいつてしまわないよう気をつけてほしい。	・素案では、野田市の生物多様性のシンボルとしてコウノトリの飼育・放鳥・野生復帰に取り組んでいることを記載しているので、確認いただき、改めてご意見をお願いしたい。
第3章 第2期戦略の目指す姿と方針 (1) 第2期戦略の将来像・目標年 将来像・目標年（案） 将来像：「私たちの暮らしを支える生き物がつながるまち ～コウノトリもすすめる自然なノダ～」 将来像の目標年：将来像を実現する目標年は2050年に設定 (2) 将来像を実現するための目標・指標・計画期間 将来像を実現するための目標と指標、計画期間（案） 目標：一人一人が生物多様性を感じ、行動する 指標：生物多様性の認知度 子ども（小学校5年生）の認知度15%（2020年度：6% ※） おとな（小学校5年生の保護者）の認知度40%（2020年度：30% ※） 計画期間：2023（令和5）年度から2032（令和14）年度までの10年間とする	
主なご意見	今後の対応等
・今行うことは、生物多様性とは何か、この取り組みがなぜ必要なのかを市民の皆さん、学校等、徹底して告知をし、認知度を上げる事が最重要課題だと考える。	・素案では、構成イメージ通り認知度を指標として記載している。

主なご意見	今後の対応等
・将来像の私たちの暮らしを支える生き物がつながるまちは良いと思うが、コウノトリも住める自然なノダの「自然な」の意味が分かりにくい。表現に工夫が必要だと思う。なぜノダをカタカナにするのか。 ・2050 年を目標年とするなら、将来像としては、より踏み込んだ内容が必要と思う。例えば、2030 年、2050 年と 2 段階で具体的な目標を設定し、それぞれの目標を検討してはどうか。	・「コウノトリも住める自然なノダ」については、餌となる多くの生きものが必要なコウノトリが生息できるくらい豊かな自然が野田市にはあるということ「～なのだ」という言い回しと野田市の「ノダ」の意味合いももたせて記載している。素案で確認いただき、改めてご意見をいただきたい。 ・社会状況により、目指すところが変わってくると考えている。そのため、2050 年では、野田市の生物多様性の目標ではなく将来像として記載している。第 2 期戦略の計画期間である 2032 年までは、指標を設定し目指せるので目標として設定している。素案で確認いただき、改めてご意見をいただきたい。

第 3 章続き

(3) 第 2 期戦略で取り組む 4 つの基本方針と具体的事業

目標「一人一人が生物多様性を感じ、行動する」を達成するため、4 つの基本方針を設定

方針 1	生物多様性を「まもる」	緑地や山林、水辺等の保全により、生物多様性の基盤となる「場所」を守ります
方針 2	生物多様性を「いかす」	観光、農業、魅力あるまちづくりなど、暮らしや経済において、生物多様性による「恵み」を活かします
方針 3	生物多様性を「たのしむ」	自然に親しむ、触れる、体験する、遊ぶ、癒されるなど、生物多様性の「魅力や価値」を楽しみます
方針 4	生物多様性を「つなぐ」	環境教育・学習、人材育成、情報の収集・蓄積・活用、普及啓発等によって、生物多様性による「豊かな自然」を次世代に引き継ぎます

主なご意見	今後の対応等
・「まもる」「いかす」「たのしむ」「つなぐ」は分かりやすく、とても良い。生物多様性の基盤となる「場所」→場所が	・生きものが暮らす場所という意味で使用したが、素案では、生きものが存在する「自然環境」に修正して記載して

主なご意見	今後の対応等
何を意味するのか分かりにくい。表現の工夫を検討してほしい。 次世代に引き継ぐものとして「生物多様性による「豊かな自然」」とされていますが、「豊かな自然」が何を意味するかわかりにくく、人によって解釈が変わりそうなので、表現の工夫を検討してほしい。 ・ 4つの基本方針は1→2→3→4という順に順番に進むという事ではなく、それぞれの柱でそれぞれ進める、やれる項目からどんどん進めるという事でよい。時間軸はあるか。 ・ 取組事業として59事業あるが、同時にスタートすることはとても不可能なことだと思う。 ・ 「まもる」については、地主の許可もなく法律がない中で、勝手に市が管理する土地にすることは出来ない。「だいじにする」等、別の表現が必要と考える。 ・ 「たのしむ」について、生物多様性を正しく理解し「たのしむ」ことは、楽しむだけだと誤解も生まれる。生物多様性を理解するための自然観察会などのイベントを定期的に行うなどにより、意識がより深められると思う。	いるので、確認いただき改めてご意見をいただきたい。 「豊かな自然」を引き継ぐではなく、「自然の恵み」を次世代に引き継ぐに修正し記載しているので、素案で確認いただき、改めてご意見をいただきたい。 ・ 4つの基本方針に沿って、設定した事業をそれぞれ進めることが生物多様性の保全につながると考えている。 - ほとんどが既存事業であるが、新規事業については、計画期間内のどのタイミングで行うか定めるかどうかについて、改めてご意見をいただきたい。 ・ 「まもる」という言葉は、人間も含め生きものが暮らす自然環境を残していくということを意識する意味で記載しているので、素案で確認いただき、改めてご意見をお願いしたい。 ・ 「たのしむ」という言葉は、自然に親しみ触れることで楽しいという思いを感じてもらいたいという意味で記載しているので、確認いただき、改めてご意見をお願いしたい。

第4章 第2期戦略の推進体制と今後の進め方

(1) 生物多様性のだ戦略の推進体制

●主体の分類と主な役割

- ①野 田 市：関係各課と協力し事業を推進、各主体との連携体制の構築
- ②教 育 機 関：子どもたちへの環境教育の推進
- ③自然保護団体：自然環境調査の実施及び協力
- ④市 民：生物多様性の保全活動への参加
- ⑤企 業：環境保全活動の実施、他主体への支援
- ⑥国・県・近隣自治体：広域的な事業の推進

(2) 今後の進め方（戦略の進行管理）

- 事業の進捗状況を把握するために、事業の担当部署と定期的に連絡・調整を図れるよう「（仮称）生物多様性のだ戦略における事業検証会議」を設立し事業の検証を実施する

主なご意見	今後の対応等
・推進体制として市民に対する啓蒙活動が非常に重要だと思う。野田市の様々な部署が連携し、また様々な市民団体や教育機関と連携しながら、小中学生だけでなく、全市民に対する啓蒙活動を様々な媒体を通じて行うことが必要だと思う。 ・推進体制に、「こうのとりの里」運営組織、(株)野田自然共生ファームを組み入れてはどうか。 ・生物多様性の活動には地主や農家の協力が不可欠である。推進体制に地主や農家を入れてはどうか。 ・「(仮称)生物多様性の戦略における事業検証会議」について、年1・2回程度で定期化し、進捗状況を確認しながら継続的に実績を積み上げていくことが必要。	・素案では、各主体が、それぞれの役割を認識し、連携していくことが必要でと記載しているので、確認いただき、改めてご意見をお願いしたい。 ・(株)野田自然共生ファームは、市の第3セクターで、市と連携し自然と共生する地域づくりに取り組んでいるため、市に含まれていると考えている。 ・素案では地主や農家の方は市民の中に含めている。市民と分けて記載した方がいいかについて、改めてご意見をいただきたい。 ・素案では、進捗状況の確認においては、検証会議を定期的を実施することが必要と記載しているので、確認いただき、改めてご意見をお願いしたい。

議事3（資料3）：第2期戦略における取り組む事業について

4つの基本方針別に59の事業案を記載

基本方針1	生物多様性を「まもる」	23事業
基本方針2	生物多様性を「いかす」	7事業
基本方針3	生物多様性を「たのしむ」	7事業
基本方針4	生物多様性を「つなぐ」	22事業

⇒事業（案）について了承（15名）※ただし意見あり

主なご意見と素案での対応

事業については、下記のとおりいただいた意見をふまえ、素案では、事業の内容を修正して記載しているので、確認いただき、改めてご意見をお願いしたい。
また、59事業の中に内容が重複している事業があったので、素案では事業を統合して記載する予定なので、あわせて確認いただきたい。

基本方針1 生物多様性を「まもる」 23事業

【自然環境の拠点について】

- ・理窓会記念自然公園は野田市の原風景を思わせるような自然環境が多く残っており、利根運河に隣接している貴重な場所である。この地域が大学と市民の連携により維持・保存されてほしい。
- ・三ツ堀里山自然園では東京の近くで珍しくなったミドリシジミやクリの花に集まるカミキリムシなどが見られる場所として、また、オミナエシの花に集まる蝶を撮影に来られる人たちもいるので、コウノトリ施設に隣接する林も水田とともに里山の一部として広く知られる場所になればと思う。湿地は開発されやすく市内でもまとまったハンノキ林はいくつも残されていないので、残し方を検討してほしい。

【市民の森について】

- ・「市民の森」の整備が不十分であることが市民会議で報告されているので、拡大も重要だが、整備が十分でない現状の改善に対する具体策も知りたい。
- ・市民の森の推進について、指定だけでなく最低限度の保全活動（不法投棄防止パトロールや落葉倒木の除去等）は必要。
- ・「市民の森」を含む調査地点（地区）の年1回の点検事業は必要。
- ・「市民の森」の保全、拡充を急いでほしい。小さな森が無くなってきている。森、斜面林の地主さんが協力しやすい体制、税制を早急に作ってほしい。地主さんの優遇、感謝することなどを考えてほしい。

【水田ビオトープについて】

- ・水田ビオトープの整備については、農家に配慮して検討してほしい。

【在来種の保存や外来種対策について】

- ・外来種対策について、駆除対象種を市民にどう認知させるか。市報等で具体的な種を示すなどして、協力してもらう手立てが必要。
- ・在来種の保存については、その場所の保全が一番だが、場所の改変に伴い植物の場合は移動できず多くの場合絶滅につながる。市内での希少種は他の場所に移植ということも方法の一つとして検討してほしい。

【エコネットについて】

- ・エコネットについては、既に行っている取組にも触れてはどうか。

基本方針2 生物多様性を「いかす」 7事業

【コウノトリの取組について】

- ・コウノトリ施設を見学される方々は自然環境全般にも関心が高いと思われるので、コウノトリ施設と三ツ堀里山自然園など他の場所との相互の連携を持つようにしたら良いのではないかと思う。
- ・コウノトリについて、どのように活用していくかしっかり記載してほしい。
- ・「こうのとりの里」施設の充実化（例．観察路の整備（新建設））、「（仮）生物多様性センター（兼施設）」の設立

【農産物のブランド化について】

- ・野田の農産物は、米以外は、キャベツ、枝豆、ナス、トマトなどが多く収穫されているので、ブランド化の推進をもっと検討してほしい。

基本方針 3 生物多様性を「たのしむ」 7 事業

【自然の親しみ方について】

- ・市民の関心を高め意見を求める機会として、「市民の森」や「こうのとり」などのモニターツアーを実施してはどうか。

【地球温暖化等について】

- ・ゼロカーボンシティ宣言は素晴らしいことですが、それを実現するために何が必要かの議論が必要だと思う。
- ・「たのしむ」の方針の中の事業で「地球温暖化と生物多様性の関係の理解の促進」があります。内容には、情報発信と記載されているので「つなぐ」の方に近いと思うがいかがか。

【在来種等の理解について】

- ・No. 33・34 の在来植物について、在来植物には多くの虫がつく（生態系を考えれば当然）。市民レベルでどうクリアするか。

基本方針 4 生物多様性を「つなぐ」 22 事業

【情報発信や認知度について】

- ・新聞で「中央の杜」のヤマユリが咲いたという記事を見て三ツ堀里山自然園でも咲いているのでは、と思い見に来られた方がいた。マスコミへの情報発信の威力を感じたので外部への情報発信を多くすることも必要でしょう。
- ・生物多様性の認知度を高めることは重要だと思う。その中で生物多様性から受ける生態系サービスという考え方、多様性があることによって具体的に受ける（無意識のうちに受け取っている）恩恵を同時に知ってもらうことも重要だと思う。
- ・連携・協働・交流について、市民団体、企業、事業者等だけの取組発信だけではなく、一番関係のある農家、自治会にも生物多様性活動の認知徹底が必要だと思う。

【ボランティアや調査員の育成について】

- ・ボランティアの登録は育成とともに重要である。ネット上には生物写真があふれていて閲覧する人も多くいると思う。環境調査では調査員のほかに広く一般の興味ある人々をボランティアとして募集することも良いと思う。知識より自然環境調査に興味を持って行動して下さる方々が重要である。そうした中でさらに興味を持ってもらえる方々が増えることにより自然環境意識がより広く認識され、高まることが期待される。文化、歴史の面でも同様である。特に生物調査では「多数の人の目」が重要だと思う。
- ・生物調査員の育成について、調査員を募集してもすぐに調査が出来るわけではない。調査員を育成していくことは、今から始めないと調査は続かないと思う。
- ・ボランティア登録制度について、市民にもっと関心を持ってもらうような広報をしていただきたいし、市民と団体をスムーズに繋ぐような方法を取れるようにしてほしい。

主なご意見と素案での対応

【他施設の活用について】

- ・郷土博物館と連携した活用を考えることも良いと思う。例えば学芸員の専門分野によっては負担が多くなることも考えられるが、現在でも昆虫、植物標本が収蔵されていますので郷土資料の一部として保存や展示してもらい、自然環境保全に関するような特別展などを企画していただくことも良いのではないかと思います。
- これまでの（～これからも）集められ蓄積された情報は郷土博物館とも共有することも検討してほしい。生物調査などは〇〇年代にはどこがどうであったかなど、後代には貴重な資料になるのではないかと思います。
- ・「野田市の豊かな自然と歴史をしっかりと伝える」ことは極めて重要ですが、具体策が不明確です。市立博物館、公民館、駅等における展示を検討するなど、これまでに充分行われていなかった具体策を示すことも一案だと思う。

【生物多様性教育について】

- ・「生物多様性教育」は子供たちだけでなく、広く社会教育として進める具体策が必要だと思う。
- ・No. 49 の生物多様性教育について、例えば、我孫子市教育委員会では、夏休み自由研究作品の手賀沼を題材にした研究レポートについて、県につながるルート（通常の金賞、銀賞、銅賞）とは別枠で「手賀沼賞」を制定し顕彰しています。野田市でもこのような顕彰表彰ができれば児童・生徒の中に野田の自然に目を向ける者が増えてくるのでは、と思う。「（仮称）野田自然賞」の新設を提案したい。

【生きものマップについて】

- ・No. 38 の生き物マップについて、むやみな採集、盗掘につながらないようなマップをどう作るかが課題。
- ・生き物マップによる周知PRについて、地主への協力要請、駐車場の整備、時間の管理（夜の野鳥の探索などは物騒になる）など、その場所の環境づくりが大事だと思う。

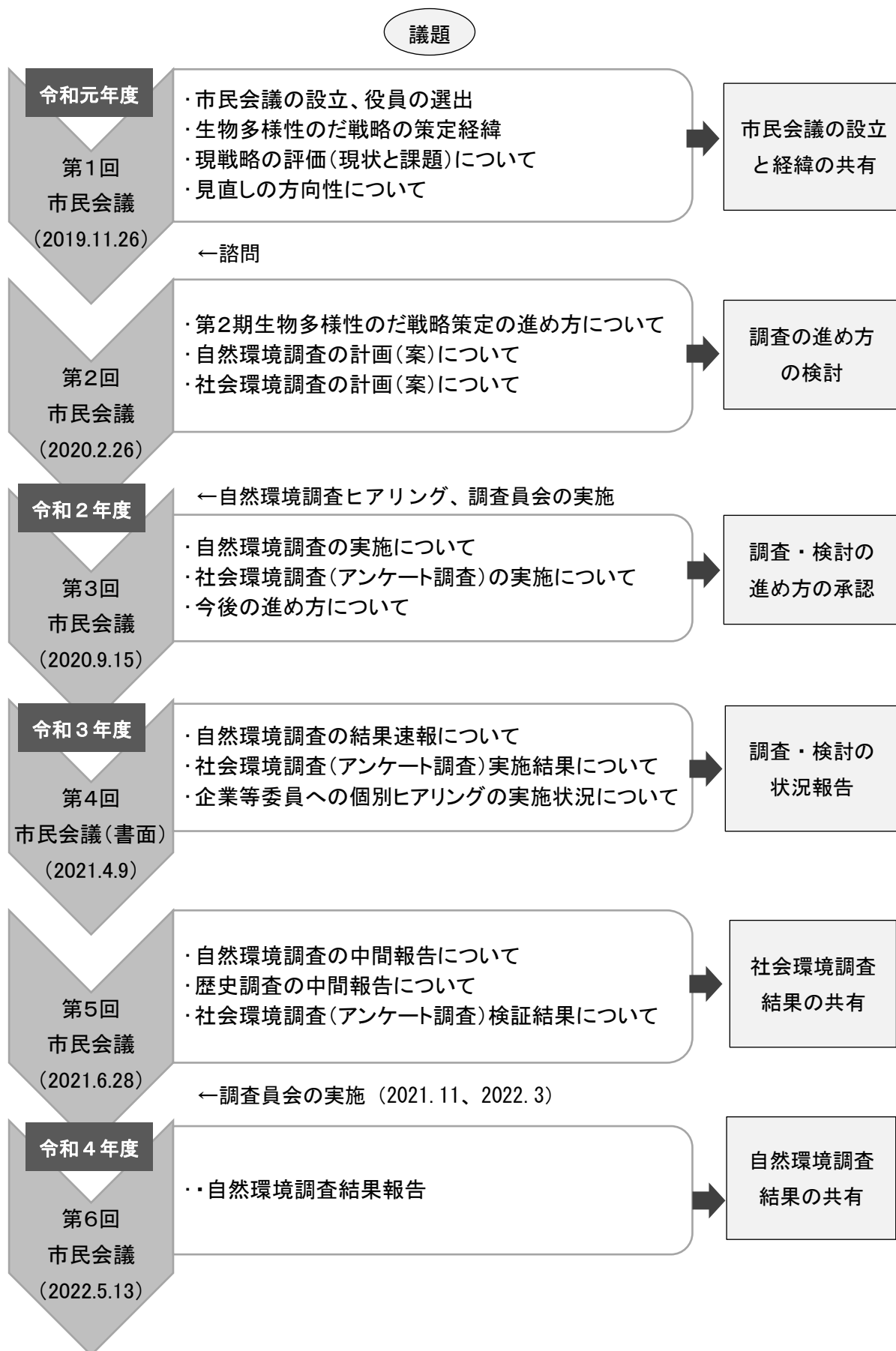
その他（資料5）：今後のスケジュールについてなど

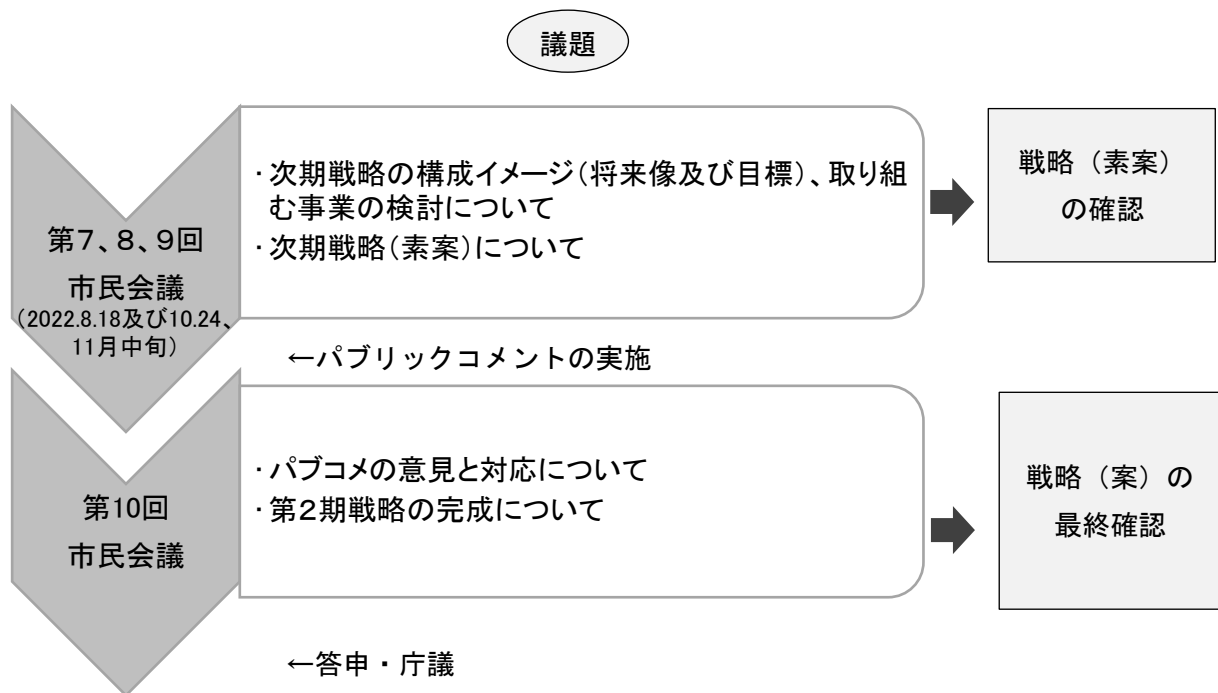
第7回会議でいただいたご意見をふまえ今回の会議で、素案を提案

主なご意見	今後の対応等
・まだ意見交換が尽くされていないと感じるので、ヒアリングと会議を重ね、十分な意見集約をお願いしたい。	・今回の会議で、素案を提案するので、素案を確認いただき、改めてご意見をいただきたい。

今後のスケジュールについて

※R4. 10月現在





「第2期生物多様性の戦略」の策定

※ 今後の市民会議のスケジュールについて、上記のとおり予定していますが、新型コロナウイルス感染症対策の状況をふまえ、適切に進めたいと考えています。

※ 今後の第2期戦略策定スケジュール

